

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

令和8年3月10日(火) 15時30分～17時00分

大会議室

学校運営協議会委員(五十音順)

皆藤 慎一(横浜平沼高等学校 同窓会真澄会 会長)
籠田 誠(横浜西口エリアマネジメント事務局 事務局長) 都合により吉野 健一代理が出席
小島 由美(横浜平沼高等学校 校長)
ジギャン クマル タパ(かながわ国際交流財団学術・文化交流グループ 職員) 欠席
遠山 満(横浜市立岡野中学校 校長) 欠席
平野 周二(横浜市西区第五地区自治会連合会 会長)
藤井 千春(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授) 欠席
深山 由希子(横浜平沼高等学校 PTA 会長)
脇本 健弘(横浜国立大学 教職員大学院 准教授) 欠席

本校職員

川上 司(副校長)	川崎 幸(教頭)・司会
島崎 理恵子(事務長)	小出 実(教務・情報グループ GL(グループリーダー))
日野 裕紀(総務グループ GL)	藤山 直樹(研究開発グループ GL)
一柳 浩一(進路グループ GL)	志方 大悟(生徒会グループ GL)
石附 泰典(生活グループ GL)	

○ 開会(15:30)

○ 学校運営協議会・評価部会(15:30～16:10)

1 校長挨拶

委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただき、お礼申し上げます。

前回は12月だったので短いスパンとなるが、この間の大きな出来事としてはまず入学者選抜、高校入試があった。倍率も少し増えた。引き続き、本校を目指す中学生を増やしていきたい。

3月2日には卒業式を行った。ご参加いただいた委員の方には感謝したい。実は今日、入試で卒業式に出られなかった7名の卒業式を行った。保護者も多く参加し、立派な式となった。

学校は新学期を前にその準備で忙しいところだ。今年度は個人情報の紛失などお詫びをしなければいけないこともあり、来年度に向けて緊張感をもって校務にあたりたい。

本日は皆様から様々なご意見をいただき、今後の学校運営に生かしていきたい。

2 報告、連絡事項

令和8年度入学者選抜について、石附入学者選抜委員長から、昨年度に比べて志願者が15名ふえたこと、問題傾向は昨年度とほぼ同じだったことなどが報告された。

3 【協議】令和7年度学校目標校内評価について

(1) グループリーダーからの説明

「教育課程の検証について」

昨年度末から今年度初めにかけて各教科にアンケートを行い、それをグループで集約し、地歴科の選択科目の配置など、着手できるところから変更を行った。課題としては、地理選択者が減少傾向にあることで、ニーズを見て対応していく必要がある。(小出 GL)

「ICTの管理体制について」

1月に県から電子黒板が届いた。春季休業中に設置、確認を行い、新学期からの利用を考えている。また、県が各校に導入したデジタル採点システムについて、できる教科から利用を始めている。生徒のアカウントに紐づけると電子返却ができるようなので活用したい。(小出 GL)

「組織的、継続的な授業改善について」

グローバル化が進む社会でのリーダー育成という今年度の目標の達成に向け、グループでは今年度、授業改善に力を入れてやってきた。研修会を2回実施し、他教科授業の見学も進めてきた。資料4(令和7年度第2回「生徒による授業評価」集計結果について)で、評価項目3「単元の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」の評価が今年度上がっている。この数値は学力向上進学重点校エントリー校の取組指標にも指定されている。少しずつ、授業改善が進んでいると言える。課題は、グループが主導しないと、個々の教員に取組みの動きがなかなか出ないことである。(藤山 GL)

「生徒会行事の運営について」

体育祭、文化祭、合唱コンクールの3大生徒会行事では、目標を教員が共有し、生徒を動かしていくやり方はほぼ固まってきた。文化祭については、コロナ前の規模や内容にただ戻せばいいのかという議論はグループ内にもある。今年度並みの開催を次年度もう一回やってみて、教員の意見も聞いて固めていきたい。いずれにせよ、固まりつつある生徒会行事を中学生に向けた本校の魅力発信のツールとなることを目指していきたい。(志方 GL)

「かながわ子どもサポートドックについて」

かながわ子どもサポートドックはスタートしてから3年目を迎え、教員の認識も定着してきた。うまく活用することで、なるべく大きな支援につなげたい。(石附 GL)

「SC、SSWとの連携について」

担任とSC、SSWが生徒の支援について職員室で相談をする姿を見かけるようになってきた。SC、SSWの活用や協力体制の整備を一層進めたい。(石附 GL)

「3学年の進路状況について」

大学進学状況だが、今年度は国公立では横浜国大が多くなっている。生徒はそれぞれ頑張っていて、大学に受かっていながら浪人を決めた生徒もいる。教育系を目指す生徒が多いのも特徴である。その一つ、横浜国大の一般選抜では、共通テストの自己採点では下位の生徒の逆転合格が出ている。ここでは個別学力検査に小論文や面接が設定されている。今後、対策が重要となる

う。なお、年内入試の志願者がどの学校でも増えている。本校の場合だと、合格してアドバンテージを上げたいと次につなげようという狙いのようなのだ。(一柳 GL)

「PTAとの連携について」

来年度に向けた課題が見えてきている。例えば役員指名。指名委員会で話し合っただけで候補を立てるのだが、後任を探すのに大変苦労されている。また、本校は各種委員会が4つあるが、活動の内容や活動量は大きく違っている。活動の仕方にも議論、工夫が必要となろう。予算についてもそうで、運営委員会では学校や生徒への還元を念頭にどう変えていくかの議論が多くなっている。(日野 GL)

「防災への取組みについて」

防災訓練を通じて、生徒には自分の安全確保の後、地域に対してどんな協力ができるかを確認させた。また、教員研修では、津波避難について、避難後の行動などを考える機会が設けられた。次年度以降も、防災に向けてしっかりと取り組むたい。(石附 GL)

(2) 質疑等

「教員の働き方改革について」

今年度、平沼高校ではいろいろなことがあった。不祥事については油断から起こるというより、忙しくて余裕がないから起きてしまうのではないかと。ぜひ働き方改革を進めてほしい。それとは矛盾するかもしれないが、県立高校はこれから冬の時代に入る。無償化の私立高校、横浜市立高校と比べてスペックが落ちる。先生方には何とか工夫して乗り切ってもらいたい。(深山委員)

「地域連携について」

初めて参加させていただき、その所感を述べさせてほしい。世の中では教員離れが進んでいるが、先ほど教育系を目指す生徒が多いと聞き、日頃の先生方の取組みが芽を結んでいるのだと思った。リーダー養成については我々も様々なプログラムを提供している。地域貢献活動でも、自分で考えて行動する能動的参加の形態を提案したい。例えばこの街にはどんな課題があるのかを仮説を立ててフィールドワークするといった学習に結び付けた取組みはどうか。(吉野代理)

今年度は学校と同窓会、PTAの協力体制が進んだ。先生方の大変さも実感できた。例えばこの2年間、翠平戦・平翠戦として両校部活動にOBも加えた交流を行ってきたが、他校との調整で大変なご苦労をおかけした。生徒にとっては、過去の伝統を実体験できる2年間だったのではないかと。また、記念事業を通じて、学校の予算は本当に限られていることがよく分かった。同窓会にも後継者不足などの課題はあるが、平沼高校に付加価値を付けて高めていくためにまなびや基金などに同窓会も協力し、発展させたい。(皆藤委員)

「防災教育・学校防災について」

平沼高校の今年度取組みに感謝している。中でも125周年記念式典の立派さに驚いた。そんな中、広域応援活動拠点として横浜市長と協定細則を締結すると知り、しっかりと協力していきたいと考えている。西区第五地区では定期的な懇談会があり、「防災・減災」もテーマとなっている。岡野中学校の生徒さんも参加しているので、平沼高校生も参加いただけたらうれしい。(平野委員)

○ その他の部会（扱ったテーマ、委員等から出た質問、意見等の概要）（16:10～16:55）

1 地域連携部会

「地域貢献について」

- ・相鉄ムービルの解体に伴う周辺環境への影響が懸念される。
- ・商店街も周辺環境の改善意識が強く、これまでビブレ前のアートスポット化などを実現した。結果、集まる人間の属性や行動様式が変わり、ごみの量も減った。横浜は地元愛も強いので、残したい物へのリクエストを聞いていくことが重要だ。
- ・西区から補助金をもらって帷子川沿いの遊歩道を整備すると聞いているが、本当に人は行くようになるのだろうか。
- ・学校の周りがきれいになることは生徒たちにとってもよいことなので、楽しみにしたい。
- ・地域貢献活動として多くのクラスを同時に動かすとなると、わかりやすい活動としてクリーンアップがあり、ゴミの認知にもつながるので多くの学校で行われている。先ほど示唆があった、主体的、能動的にやらせるとなると、高校では総合的な探究の時間を活用しての計画的な実施となろうが、協力は得られるのか。—どうすればゴミを出さなくするか、そのコーディネートなら横浜西口エリアマネジメントでもできる。普段から我々はそういう活動をしているので。

「防災について」

- ・教員が防災と聞いて真っ先に思うのは生徒を守ること。学校では優先順位は生徒が先となる。
- ・新たな協定細則では広域応援活動拠点として自衛隊などが使用するとのことだが、自衛隊が来るとの話は前からあった。今回、それが文言になったということか。—そのようだ。
- ・学校の鍵は誰が預かっているのか？ —西区役所総務室総務課。
- ・この地域の避難所である岡野中の場合は自治会も持っている。
- ・県西部では高校は地域と年数回の避難所運営委員会を持ち、やはり自治会にも鍵を貸していた。
- ・災害について、過去に経験した方もおられると思うが。
- ・地元が大野町だが、チリ地震とときは帷子川もものすごい勢いで逆流し、上流では洪水が起きた。

（学力向上・グローバル教育推進部会はメンバーが多数欠席のため中止）

○ 閉会（17:00）